

## 2021年10月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年9月14日

上場会社名	株式会社CAICA	上場取引所	東
コード番号	2315	URL	https://www.caica.jp
代表者	(役職名)代表取締役社長	(氏名)鈴木 伸	
問合せ先責任者	(役職名)代表取締役副社長	(氏名)山口 健治	(TEL)03(5657)3000
四半期報告書提出予定日	2021年9月14日	配当支払開始予定日	—
四半期決算補足説明資料作成の有無	: 有		
四半期決算説明会開催の有無	: 無		

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年10月期第3四半期の連結業績(2020年11月1日～2021年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年10月期第3四半期	4,271	△3.4	△568	—	△578	—	△120	—
2020年10月期第3四半期	4,420	△26.6	△604	—	△680	—	△302	—

(注) 包括利益 2021年10月期第3四半期 △173百万円 (—%) 2020年10月期第3四半期 △373百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年10月期第3四半期	△186	—
2020年10月期第3四半期	△839	—

(注1) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(注2) 当社は、2021年5月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年10月期第3四半期	97,587	11,589	10.7
2020年10月期	11,297	9,239	81.8

(参考) 自己資本 2021年10月期第3四半期 10,411百万円 2020年10月期 9,237百万円

(注) 2021年10月期第3四半期における総資産の大幅な増加及び自己資本比率の大幅な減少については、株式会社Zaif Holdings及びその子会社を連結子会社として連結の範囲に含めたことによるものであります。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年10月期	—	000	—	000	000
2021年10月期	—	000	—	—	—
2021年10月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2021年10月期の期末配当予想額につきましては、現時点では未定であります。

### 3. 2021年10月期の連結業績予想(2020年11月1日～2021年10月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	6,940	15.6	127	—	123	—	15	—	023	

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※2021年10月期(予想)の1株当たり当期純利益につきましては、当該株式併合後の金額を記載しております。詳細は「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 2社 (社名)株式会社Zaif Holdings、株式会社Zaif 除外 1社
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2021年10月期3Q	69,623,064株	2020年10月期	63,507,064株
② 期末自己株式数	2021年10月期3Q	58,512株	2020年10月期	19,301株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2021年10月期3Q	64,688,826株	2020年10月期3Q	36,066,550株

(注) 当社は、2021年5月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、「期末発行済株式数 (自己株式を含む)」「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績等の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。上記予想に関する事項につきましては、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(株式併合後の業績予想について)

2021年5月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。なお、株式併合を考慮しない場合の2021年10月期の連結業績予想は以下のとおりであります。

2021年10月期の連結業績予想 1株当たり当期純利益 通期 0円02銭

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

第1四半期連結会計期間より、金融業向けを主としたシステム開発や暗号資産に関するシステム開発等を行う「ITサービス事業」と金融商品取引法に基づく第一種金融商品取引事業や暗号資産に関する金融商品開発等を行う「金融サービス事業」にセグメントを変更しております。

当第3四半期連結累計期間（2020年11月1日～2021年7月31日）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症が終息の兆しを見せず、政府による緊急事態宣言の再発令に伴う外出の自粛等により、国内景気は減速を余儀なくされており、経済活動の急激な変化や感染再拡大の懸念から、先行き不透明な状況が依然として続いております。一方で、ワクチンの接種が本格的に開始され、消費の持ち直しへの期待感が高まりつつあります。

当社グループが事業を展開するITサービス業界及び金融サービス業界は、新型コロナウイルスの感染拡大を契機に、デジタル化の進展が更に加速し、国内外を問わず企業の業務形態が大きく変わることになると認識しております。

このような状況の下、当社グループは、IT金融企業として更なる深化を遂げるべく、「ITサービス事業」においては、一次請け比率の向上、自社ソリューション型商品比率の向上に努めました。「金融サービス事業」においては、暗号資産を原資産とした商品の開発、販売による売上拡大に努めました。

2020年11月、新たな事業領域であるSI事業者に向けた業務効率化支援サービスプラットフォームを運営する専門会社として株式会社C A I C A デジタルパートナーズを設立いたしました。

2020年12月、当社の100%子会社であるeワラント証券株式会社（以下、「eワラント証券」といいます。）とともに、国内外の暗号資産、主に有望なDeFi<sup>※1</sup>案件への投資を迅速に実行していくために、暗号資産及び暗号資産デリバティブへの投資を行うEWC匿名組合の運営する「暗号資産ファンド」に出資いたしました。また、アートへの投資を行うとともに、出口戦略として一般的な相対での売却の他にNFT<sup>※2</sup>の仕組みを活用した売却も視野に入れた、EWA匿名組合の運営する「アートファンド」に出資いたしました。EWC匿名組合、EWA匿名組合は当社の連結子会社に該当いたします。なお、NFTのシステムは、当社子会社の株式会社C A I C A テクノロジーズ（以下、「C A I C A テクノロジーズ」といいます。）が開発するブロックチェーンプラットフォームを利用します。

加えて、2021年3月、株式（上場、未上場）、社債（上場、未上場）等への投資を行うCK戦略投資事業組合に出資を行い、当第3四半期連結会計期間より、同ファンドを連結子会社といたしました。

また、当社は自社で発行した暗号資産「C A I C A コイン」（単位:CICC）の流動性向上を狙い、新たに海外の暗号資産交換所に上場いたしました。現時点では、日本国内の「Zaif Exchange」、セイシェル共和国の法人が運営する「FinexBox」、上海及び台北を拠点とする「Hotbit」、エストニア共和国に本社を置く「Exrates」、シンガポールに本社を置きセイシェル共和国の法人が運営する「Digifinex」に上場しております。当社は暗号資産を発行している数少ない上場会社として、「C A I C A コイン」の海外投資家への認知度の向上や利用範囲の拡大を図るとともに「C A I C A コイン」の可能性を追求し革新的な金融サービスを創出してまいります。

なお、当社グループは、2021年11月1日付で、当社及び当社の金融サービス事業に属する子会社の商号変更と金融サービス事業を統括する中間持株会社を会社分割の方法により設立する予定です。IT金融企業としてのビジョンを明確化するとともに金融サービス事業の子会社をC A I C A（カイカ）ブランドへ統一することで更なる認知度の向上を図ってまいります。

※1 Decentralized Financeの略称で、金融分野におけるDAppsです。非中央集権の暗号資産交換所や、デリバティブ、レンディング等のサービスがあり、最も注目される分野の一つです。

※2 NFTとは「Non-Fungible Token」の略称で、代替不可能で固有の価値を持つデジタルトークンのことです。NFTではすべてのトークンは唯一無二で、また分割することができません。価値の高いアートにNFTを利用することで、新たな価値共有の形態を実現し、また、その価値交換市場を提供することが可能となります。

(商号変更一覧)

現商号	新商号	変更予定日
株式会社CAICA	株式会社CAICA DIGITAL	2021年11月1日
(会社分割により新設)	株式会社カイカフィナンシャルホールディングス	2021年11月1日
SJ Asia Pacific Limited	変更なし	—
eワラント証券株式会社	カイカ証券株式会社	2021年11月1日
EWARRANT FUND LTD	変更なし	—
EWARRANT INTERNATIONAL LTD	変更なし	—
EWM (HONG KONG) LIMITED	変更なし	—
株式会社CAICAテクノロジーズ	変更なし	—
株式会社CAICAデジタルパートナーズ	変更なし	—
EWC匿名組合	変更なし	—
EWA匿名組合	変更なし	—
CK戦略投資事業有限責任組合	変更なし	—
株式会社Zaif Holdings	株式会社カイカエクスチェンジホールディングス	2021年11月1日
株式会社Zaif	株式会社カイカエクスチェンジ (サービス名「Zaif」は継続して使用します)	2021年11月1日
株式会社Zaif Capital	株式会社カイカキャピタル	2021年11月1日

当第3四半期連結累計期間における売上高は4,271百万円(前年同四半期比3.4%減)となりました。CAICAテクノロジーズにおけるシステム開発については、新型コロナウイルスの影響により停滞していた新規案件の需要が復調傾向にあることに加え、既存の継続案件が引き続き堅調に推移いたしました。一方、eワラント証券の売上高は、暗号資産を原資産とした新商品が好評であるものの、これまでの主力商品であったカバードワラント(eワラント)の販売が想定を下回り、低調に推移しております。さらに、前第3四半期連結累計期間は株式会社クシム(以下、「クシム」といいます。)の業績が6ヵ月分計上されておりますが、同社の全株式を売却し、連結から除外したこと等により前年同四半期比では売上高が減少しております。また、株式会社Zaif Holdings(以下、「Zaif HD」といいます。)、株式会社Zaif(以下、「Zaif」といいます。)、株式会社Zaif Capital(以下、「Zaif Capital」といいます。)の3社(以下、「Zaifグループ」といいます。)は、2021年4月、5月、6月の3ヵ月分が損益計算書に連結されております。なお、第2四半期連結累計期間までは持分法適用関連会社として取込むとともに、第2四半期連結会計期間末に貸借対照表のみを連結に取込んでおります。

営業損益につきましては、グループ全体で販売費及び一般管理費の削減に努め損失額は縮小いたしました。クシム売却やeワラント証券における売上高低迷の影響及びZaifグループの販売費及び一般管理費の取込等により、営業損失は568百万円(前年同四半期は営業損失604百万円)となりました。

経常損益につきましても損失額は縮小しておりますが、営業損失の計上に加え持分法による投資損失を25百万円計上したこと等から、経常損失は578百万円(前年同四半期は経常損失680百万円)となりました。

親会社株主に帰属する四半期純損益につきましても前年同四半期比で損失額は縮小いたしました。当社は持分法適用関連会社であったZaif HDの株式を追加取得し、同社及びその子会社を連結子会社化いたしました。本追加取得に伴い、従前から保有する持分を当該追加取得時の時価で再評価することによる評価差益(段階取得に係る差益)1,379百万円を特別利益に計上いたしました。一方で、Zaifグループを第2四半期連結会計期間に連結子会社化した際に発生したのれんについて、将来キャッシュ・フローの見積り額を基に回収可能性を検討した結果、当該

のれんを回収可能価額まで減額し、当該減少額981百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。これにより親会社株主に帰属する四半期純損失は120百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失302百万円）となりました。

セグメントごとの業績は以下のとおりであります。

第1四半期連結会計期間より、報告セグメントをITサービス事業と金融サービス事業に変更しております。以下の前年同四半期比較においては、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しています。

#### 1) ITサービス事業

C A I C Aテクノロジーズにおいては、新規案件は新型コロナウイルスの影響によりやや停滞しておりましたが顧客の新年度にあたる4月以降、復調傾向が続いており、積極的に営業リソースを投下することで引き続き案件の獲得を図りました。既存のシステム開発は引き続き堅調に推移いたしました。とりわけ、銀行、保険、証券等の金融機関向けの分野は、引合い案件に丁寧に対応することで受注が増加し、売上・利益ともに前年同四半期を上回るペースで進捗しております。非金融向けシステム開発分野は、コロナ禍においても顧客の事業拡大意欲が引き続き強く、IT投資も継続されております。新規案件の引合いが増加しており、これに対応すべく技術者の確保に注力しております。暗号資産関連のシステム開発分野は、暗号資産交換所向けパッケージ「crypto base C」は引合いを獲得できていたものの受注には至りませんでした。一方、暗号資産交換所「Zaif Exchange」向けの案件は引合いが活発であり、受注が拡大しております。「Zaif Exchange」においては現在、次世代システムへの移行を進めており、当該開発をC A I C Aテクノロジーズが担っております。また、株式会社レジストアートが提供する、高額で資産性の高いアート作品等のコレクションに小口から参加できる会員権プラットフォーム「crowd ART」を開発するとともに、NFTの発行、流通が可能なNFTプラットフォームの販売を開始いたしました。今後は販売のみならず、他企業のプラットフォームとの提携を含め各種検討を行ってまいります。NFTプラットフォームは今後、不動産やアートの所有権移転、トレーディングカードやゲーム内アイテムの交換・売買などの、様々な分野で利用される可能性があり、C A I C Aテクノロジーズではますます拡大するNFT市場におけるプラットフォームとしてのポジションを確立してまいります。加えて、自社製品であるブロックチェーンコミュニケーションサービス「Gu-Gu」が大手通信会社にて試用が開始されました。今後も自社製品（C A I C Aブランド）の販売を強化しソリューション型商品の比率向上に努めてまいります。

これらの結果、ITサービス事業の売上高は、3,605百万円（前年同四半期比1.4%増）、営業利益は242百万円（前年同四半期は営業損失36百万円）となりました。

#### 2) 金融サービス事業

2021年3月、当社は実質支配力基準によりZaif HDを持分法適用関連会社から連結子会社といたしました。これに伴いZaif HDの子会社であるZaif及びZaif Capitalも当社の連結子会社となっております。潜在的なポテンシャルが高いZaifグループを連結したことで将来的な当社連結業績への寄与を期待するとともに、Zaifグループに対する当社主導による迅速な意思決定の実現が可能となりました。

当第3四半期連結累計期間においては、Zaifグループの業績は、2021年4月、5月、6月の3ヵ月分が損益計算書に連結されております。なお、第2四半期連結累計期間までは持分法適用関連会社として取込むとともに、第2四半期連結会計期間末に貸借対照表のみを連結に取込んでおります。

Zaifグループの売上高は主に暗号資産交換所「Zaif Exchange」における受入手数料や暗号資産売買の損益及びZaif Capitalにおける暗号資産の自己勘定による運用損益で構成されております。暗号資産市場は2021年4月まではビットコインが毎月最高値を更新しておりましたが、5月より相場環境が大きく変わり、5月から7月にかけて下落相場が続いたことから「Zaif Exchange」における取引量が増加せず、売上高は想定を下回って推移いたしました。

暗号資産交換所「Zaif Exchange」では現在、UI（ユーザーインターフェース）とUX（ユーザーエクスペリエンス）のリニューアルや、大量注文を処理する性能の向上等、次世代システムへの移行を進めております。なお当該システム移行に係る開発はC A I C Aテクノロジーズが担っております。また、「Zaif Exchange」の認知度向上に向けた取組みの一環として各種キャンペーンを実施いたしました。また、「Zaif Exchange」では、他の暗号資産交換所ではみられない、トークンを含む豊富な銘柄を取り扱っており、2021年6月には国内初となるネムの新通貨「シンボル（XYM）」の上場を果たし、取扱いを開始いたしました。今後も独自性を活かした取組みを推進し、事業の拡大を図ってまいります。

eワラント証券は主に、小口からでも資金効率よく投資可能な金融商品であるカバードワラント（eワラント）を提供しておりますが、2019年9月よりeワラント証券自身によるインターネットでの直接販売（独自に開発した取引ツールによるカバードワラント「eワラント・ダイレクト」）を開始しております。また、2020年4月からCFD取引（Contract for Difference：差金決済取引）のサービスを開始し、2021年7月からは暗号資産を原資産としたCFD取引のサービスを開始いたしました。CFD取引は国内外の相場にレバレッジをかけた投資をほぼ24時間行うことができ、MetaTrader 5<sup>※3</sup>を採用し、自動売買にも対応している点に特色があります。

当第3四半期連結累計期間においては、暗号資産を対象とした証券化商品の提供に注力し、2021年2月及び3月には、第1弾である「ビットコインレバレッジトラッカー」、第2弾の「イーサリアムレバレッジトラッカー」、2021年5月には、第3弾の「ビットコイン先物インデックストラッカー」及び「イーサリアム先物インデックストラッカー」の取扱いを開始いたしました。暗号資産先物インデックストラッカーの取扱い開始を記念して、暗号資産レバレッジトラッカー2銘柄の売買スプレッドを縮小するキャンペーンを展開し、「eワラント・ダイレクト」における取引高の増加に寄与しましたが、スプレッド縮小等により収益性は低下したことから、損益に貢献するまでには至りませんでした。また、それまでの主力商品である個別株を対象原資産とするカバードワラント（eワラント）の販売は、前年同四半期比では売上高が大幅に改善したものの伸び悩み、低調に推移しております。

※3 MetaTrader5は、ロシアで創業し現在はキプロス拠点のメタクオーツ・ソフトウェア社が開発した世界的に有名な取引プラットフォームであり、MetaTrader4（MT4）の後継バージョンとなります。

これらの結果、金融サービス事業の売上高は669百万円（前年同四半期は、90百万円）、営業損失は381百万円（前年同四半期は、営業損失352百万円）となりました。

## （2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は97,587百万円（前連結会計年度は11,297百万円）となりました。これは主に、Zaif HD、Zaif、Zaif Capitalを連結の範囲に取込んだことにより、利用者暗号資産68,723百万円、預託金15,785百万円が増加したことなどによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における負債は85,997百万円（前連結会計年度は2,057百万円）となりました。これは主に、Zaif HD、Zaif、Zaif Capitalを連結の範囲に取込んだことにより、預り暗号資産68,723百万円、預り金15,172百万円が増加したことなどによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は11,589百万円（前連結会計年度は9,239百万円）となりました。これは主に、行使価額修正条項付株式会社C A I C A第2回新株予約権（停止要請条項付）の一部権利行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ655百万円、非支配株主持分1,159百万円が増加したことなどによるものであります。なお、2021年3月1日に、当社の繰越利益剰余金の欠損を補填し更なる財務体質の健全化を図り効率的な経営を目的とする無償減資及び剰余金の処分を行い、無償減資により資本金が3,143百万円減少、資本剰余金が3,143百万円増加し、剰余金の処分により資本剰余金が492百万円減少、利益剰余金が492百万円増加しております。

以上のとおり、当第3四半期連結会計期間末においては、自己資本比率が10.7%（前連結会計年度末81.8%）となりました。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、金融サービス事業における市場の変動が業績に与える影響や他の要素を含め現在精査中であり、業績予想を修正すべきと判断した時点で速やかに開示いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,960,433	4,284,589
預託金	62,000	15,847,200
受取手形及び売掛金	685,546	583,096
商品	3,242	2,674
仕掛品	77,402	82,400
自己保有暗号資産	-	197,539
利用者暗号資産	-	68,723,359
短期貸付金	-	1,200
未収入金	155,219	92,895
預け金	113,917	676,837
その他	81,790	318,777
流動資産合計	6,139,553	90,810,569
固定資産		
有形固定資産	69,961	164,315
無形固定資産		
ソフトウェア	126,365	278,028
のれん	24,553	5,753,311
その他	21,174	17,442
無形固定資産合計	172,094	6,048,782
投資その他の資産		
投資有価証券	4,845,179	428,813
出資金	9,493	59,198
長期貸付金	204,529	196,411
その他	83,480	97,300
貸倒引当金	△227,076	△218,076
投資その他の資産合計	4,915,606	563,649
固定資産合計	5,157,661	6,776,746
資産合計	11,297,215	97,587,315



(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年7月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	195,967	195,972
1年内返済予定の長期借入金	180,000	180,000
1年内償還予定の社債	140,000	140,000
未払金	136,935	303,682
預り金	45,359	15,217,660
預り暗号資産	-	68,723,359
未払法人税等	39,827	27,221
未払消費税等	162,724	122,315
賞与引当金	154,029	79,756
その他	73,215	364,744
流動負債合計	1,128,059	85,354,713
固定負債		
社債	350,000	260,000
長期借入金	540,000	360,000
繰延税金負債	480	-
その他	39,449	23,150
固定負債合計	929,930	643,150
特別法上の準備金		
金融商品取引責任準備金	8	8
特別法上の準備金合計	8	8
負債合計	2,057,997	85,997,871
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,193,697	705,327
資本剰余金	9,856,787	13,162,290
利益剰余金	△3,805,449	△3,433,104
自己株式	△88,946	△97,073
株主資本合計	9,156,089	10,337,440
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△17,309	△26,264
繰延ヘッジ損益	△1,774	-
為替換算調整勘定	100,191	100,479
その他の包括利益累計額合計	81,107	74,214
新株予約権	2,020	18,101
非支配株主持分	-	1,159,688
純資産合計	9,239,217	11,589,444
負債純資産合計	11,297,215	97,587,315

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年11月1日 至2020年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年11月1日 至2021年7月31日)
売上高	4,420,173	4,271,769
売上原価	3,783,875	3,238,579
売上総利益	636,298	1,033,189
販売費及び一般管理費	1,241,230	1,601,762
営業損失(△)	△604,931	△568,572
営業外収益		
受取利息	7,912	12,580
受取配当金	568	1,739
投資有価証券売却益	2,580	-
助成金収入	-	25,710
賞与引当金戻入額	8,717	-
その他	7,279	11,664
営業外収益合計	27,057	51,694
営業外費用		
支払利息	15,150	6,153
支払手数料	19,140	6,151
持分法による投資損失	63,778	25,507
株式交付費	-	9,983
社債発行費等	-	4,567
その他	4,147	8,787
営業外費用合計	102,216	61,150
経常損失(△)	△680,091	△578,029
特別利益		
貸倒引当金戻入額	7,600	9,000
関係会社株式売却益	488,570	15,311
段階取得に係る差益	-	1,379,593
特別利益合計	496,170	1,403,904
特別損失		
減損損失	44,328	981,292
固定資産売却損	2,415	-
特別損失合計	46,743	981,292
税金等調整前四半期純損失(△)	△230,664	△155,417
法人税、住民税及び事業税	77,561	10,731
法人税等調整額	△13,022	-
法人税等合計	64,539	10,731
四半期純損失(△)	△295,204	△166,148
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	7,526	△46,145
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△302,730	△120,003

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年7月31日)
四半期純損失(△)	△295,204	△166,148
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△80,264	△8,954
為替換算調整勘定	△25	287
持分法適用会社に対する持分相当額	1,865	1,774
その他の包括利益合計	△78,425	△6,892
四半期包括利益	△373,629	△173,041
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△351,910	△126,896
非支配株主に係る四半期包括利益	△21,719	△46,145

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2021年1月28日開催の定時株主総会において、当社の繰越利益剰余金の欠損を補填し更なる財務体質の健全化を図り効率的な経営を目的とする無償減資及び剰余金の処分について決議し、2021年3月1日を効力発生日として資本金が3,143,697千円減少、資本準備金が3,472,113千円減少し、その他資本剰余金が6,615,810千円増加しております。また利益準備金が12,400千円減少、その他資本剰余金のうち492,347千円を繰越利益剰余金に振り替え、欠損填補に充当しております。また、行使価額修正条項付株式会社C A I C A 第2回新株予約権（第三者割当による行使価額修正条項付新株予約権）の一部権利行使により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ655,327千円増加しております。

これらの結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が705,327千円、資本剰余金が13,162,290千円、利益剰余金が△3,433,104千円となっております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年11月1日 至 2020年7月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ITサービス 事業	金融サービス 事業	HRテクノ ロジー事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,487,294	90,490	842,389	4,420,173	-	4,420,173
セグメント間の内部 売上高又は振替高	68,836	-	39,221	108,057	△108,057	-
計	3,556,130	90,490	881,610	4,528,231	△108,057	4,420,173
セグメント損失(△)	△36,929	△352,976	△18,139	△408,046	△196,885	△604,931

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去の△3,397千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△193,487千円が含まれております。全社費用の主なものは、当社(持株会社)運用に係る費用であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. HRテクノロジー事業は、当社の連結子会社でありましたクシムの株式を一部売却し、第2四半期連結累計期間の末日で持分法適用関連会社としたことにより、第2四半期連結累計期間までの業績を表示しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「金融サービス事業」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において、6,618千円であります。

「HRテクノロジー事業」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において、12,089千円であります。

各報告セグメントに配分していない全社資産において、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において、25,620千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結累計期間において、「HRテクノロジー事業」を営んでいる株式会社クシムを連結の範囲から除外しました。当該事象によるのれんの減少額は、1,330,342千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2020年11月1日 至 2021年7月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ITサービス 事業	金融サービス 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,602,731	669,038	4,271,769	-	4,271,769
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,242	-	3,242	△3,242	-
計	3,605,973	669,038	4,275,012	△3,242	4,271,769
セグメント利益又は 損失(△)	242,365	△381,511	△139,145	△429,426	△568,572

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去の△591千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△428,834千円が含まれております。全社費用の主なものは、当社(持株会社)運用に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

(子会社の取得による資産の著しい増加)

第2四半期連結会計期間において、株式会社Zaif Holdingsの株式を追加取得し、持分法適用関連会社から連結子会社となったことにより、前連結会計年度の末日に比べ、「金融サービス事業」のセグメント資産が89,368,079千円増加しております。

## 3. 事業セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、業績管理区分を見直しており、それに伴い報告セグメントの見直しを行っております。従来「情報サービス事業」としていた報告セグメントの名称を「ITサービス事業」、「金融商品取引事業」としていた報告セグメントの名称を「金融サービス事業」に変更するとともに、「暗号資産関連事業」を「ITサービス事業」と「金融サービス事業」へそれぞれ集約しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間において用いた報告セグメントに基づき作成したものを開示しております。

## 4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

第2四半期連結会計期間において、「金融サービス事業」を営んでいる株式会社Zaif Holdings、株式会社Zaif及び株式会社Zaif Capitalを子会社へ変更しました。当該事象によるのれんの増加額は、6,799,707千円であります。なお、将来キャッシュ・フローの見積り額を基に回収可能性を検討した結果、当該のれんを回収可能価額まで減額し、当該減少額981,292千円を減損損失として計上しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。